

陸軍軍法會議法案外十件特別委員會會議事速記録第一號

付託議案

朝鮮軍法會議ニ關スル法律案
臺灣軍法會議ニ關スル法律案
關東軍法會議ニ關スル法律案
海軍軍法會議法案
陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法廢止法律案

刑事交渉法案

陸軍法務官及海軍法務官ノ恩給及遺族扶助ニ
關スル法律案

巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案
明治三十五年法律第二十九號中改正法律案
明治四十四年法律第六十一號中改正法律案

委員氏名

委員長 松室 致君
副委員長 侯爵坂本 俊篤君
伯爵細川 護立君
男爵柳澤 保惠君
男爵小澤 武雄君
子爵樋口 誠康君
子爵立花 種忠君
大島 健一君
河村 讓三郎君
男爵宇佐川 一正君
男爵肝付 兼行君
男爵佐竹 義準君
磯部 四郎君
西久保 弘道君
矢口長右衛門君

大正十年二月一日(火曜日)午前十時十六分開會

○委員長(松室致君) ソレデハ是カラ開會イタシマス

○政府委員(山梨半造君) 陸軍治罪法改正ノ趣旨ヲ
是カラ説明申上ゲマス、陸軍ノ治罪法ハ明治二十一
年十月ニ、又海軍治罪法ハ明治二十二年ノ二月ノ制
定ニ係ハルモノデアリマシテ、其規定スル所ハ概ネ

舊制ニ倣ヒマシテ事件ノ審議ハ總テ長官ノ命令ニ依
ッテ始マリ、公訴提起執行ノ機關ハナイノデアリマ
ス、又審議ハ之ヲ公開シマセヌ、被告人ハ辯護人ヲ付
スルト云フコトノ制度ヲ缺イテ居リマス、裁判ハ長
官ノ命令デナケレバ之ヲ宣告スルコトガ出來ヌヤウ
ニナッテ居リマス、ソレカラ裁判ハ一審デ上訴ヲ許シ
テアリマセヌ、デ右申上ゲマシタ通りノコトデアリ
マスルカラシテ、裁判ノ公正ヲ保ッテ信用ヲ維持シ
テ、又被告人ノ利益ヲ保護スルコト云フコトニ於テ少
シク缺ケル所ガアル譯デアリマス、斯ノ如キ次第デ
アリマスカラシテ、陸軍治罪法及ビ海軍治罪法ヲ改
正セネバナラヌト云フ議ガアリマシテ、殊ニ論文又
ハ演說等ヲ以テ之ヲ論ズル者ガ多クナリマシタ、明
治四十年即チ第二十四回帝國議會ニ於キマシテ陸軍
ノ刑法案ト海軍ノ刑法案ヲ提出ガアリマシテ、其審
議ノ際ニ陸軍大臣並ニ海軍大臣ハ共ニ軍治罪法ノ改
正ノ必要ヲ認ムル旨ト、ソレカラ改正方針ノ大綱ヲ
其時ニ言明シタノデアリマス、ソレ以來陸軍大臣海
軍大臣ハソレト其省內ニ改正ノ委員會ヲ設ケマシ
テ、調査ニ從事シタノデアリマス、大正三年一月ニハ
陸軍治罪法海軍治罪法共同調査委員會ヲ設ケマシテ
此海陸部內及ビ其部外ノ方カラ委員ト若シクハ委
員長トヲ任命スルコトニナリマシタ、又ハ部外ノ人
ニ囑託シテサウシテ慎重審議ノ末ニ大正八年七月ニ
漸ッテ調査ガ完了シタ次第デアリマス、是カラ改正ノ
大綱ヲ申上ゲマス、此改正案ハ諸國ノ立法ノ例ヲ斟
酌シマシテ、大綱ニ於テ軍紀ヲ維持シマシテ、サウシ
テ軍ノ利益ヲ保護スルニ付テハ周到ナル用意ヲ用ヒ
マシタト同時ニ、被告人ノ利益ヲ顧慮イタシマシテ、
人權保護ノ方面ニ於テハ十分意ヲ用キテ居ル次第デ
アリマス、改正案ハ陸軍海軍ノ制度其他事情ノ異ル
ニ隨ッテ自然ニ規定ノ異ッタ處ガアリマスガ、其外ハ
成ル可ク其規定ヲ同ウスルコトニ努メテアリマス、
裁判手續ニ付キマシテハ、軍ノ利益ト相反セザル限
リ、主トシテ此法律取調委員會ニ於テ取調ベタル處

ノ刑事訴訟法改正案ヲ斟酌シテ居ルノデアリマス、
改正案ハ之ヲ二篇ニ分チマシテ、第一篇ニハ裁判ノ手
續ヲ規定シテアルノデアリマス、此ノ如ク篇ヲ分チ
テアリマスル故ニ、治罪法ノ名稱ガ適當デナイト云
フ事ヲ認メマシテ、陸軍軍法會議法、海軍軍法會議法
ト之ヲ名ヲ改メタ次第デアリマス、次ニ現行法ニ改
正ヲ加ヘタル主ナル事項ニ付テ申シマス、第一ハ軍
法會議ノ裁判ハ長官ノ確認ヲ經タル後ニアラザレバ
言渡ラナス事ガ出來ナカッタト云フ制度デアリマス
ルガ、之ヲ廢シマシテ裁判ノ言渡ハ軍法會議ノ全權
ヲ以テ之ヲスル、又審判上他ノ干涉ヲ受ケル事ノ無
イ旨ヲ明カニ示シテアリマス、第二ハ現行法ニ於
テ軍法會議ノ傍聽ハ之ヲ許シテアリマセヌ、唯、裁判
宣告ヲナス時ニ限ッテ、凡ソ現役軍人ハ傍聽ヲ許ス事
ニナッテ居リマスルガ、此制度ヲ改メテ、審判公開ノ
制ヲ定メテアリマス、第三ニ現行法ニ於テ軍法會議
ノ審議ニ辯護人ヲ付クル事ヲ許シテアリマセヌガ、
今度新タニ公判ニ於テ辯護人ヲ付スルノ制ヲ設ケテ
アリマス、第四ニ現行法ニ於テ上訴ノ道ガアリマセ
ヌ、裁判ハ言渡ト同時ニ確定スルノ制度ニナッテ居
ルノデアリマスガ、之ヲ法令ニ違背ヲ理由トスル處ノ
上告ハスル事ガ出來ルト云フ制度ヲ設ケテアリマス
第五ニハ軍法會議ノ裁判權、名稱及管轄ニ變更スル
處ガアリマス、第六ニ軍法會議職員ノ名稱ガ改マッ
テ居ラヌノデアリマスガ、之ヲ改メマシテ、審判機關
ノ一員ニ加ヘテアリマス、第八ニ軍法會議ノ專門法
官タル法務官ヲ終身官ト致シマシテ、且其身分ヲ保
障スル規定ヲ設ケテアリマス、第九ニハ新タニ檢察
官ヲ置キマシテ、之ヲシテ搜查ヲナシ公訴ヲ行フ事ニ
シテアリマス、第十二搜查權ノ系統、搜查各官憲ノ權
域ヲ明カニシテアリマス、憲兵ハ陸軍治罪法ハ檢察
ノ權ヲ持ッテ居リマス、海軍治罪法デハ之ニ檢察ノ權
ヲ與ヘテアリマセヌ、又警察官ハ一般ニ軍人軍屬ノ犯
罪ニ付テハ現行犯ノ場合ニ限ッテ特別處分ヲナシ得

ル權限ヲ有スルコト云フコトニナツテ居タ、其外ニ於テハ權限ヲ有セスコトデアリマシタ、之ヲ今度ハ改メマシテ、陸軍司法警察官、海軍司法警察官ヲ設ケテ、憲兵又ハ陸軍大臣海軍大臣ニ於テ指定シタル司法警察官ヲ以テ之ニ充テ、アリマス、軍司法警察ノ職務ヲ執ラセル事ニシテアリマス、第十一ニハ裁判官ノ除斥回避ノ制ヲ設ケテアリマス、且檢察官ト被告トヨリ、長官ニ裁判官ノ除斥ヲ具申シ得ル規定ヲ設ケテアリマス、第十二ニハ現行法ニ於テ拘留ヲ受ケタル被告人ニ對シテ、保釋ヲ許サル、ヤウナ規定ニナツテ居リマスガ、之ヲ改メマシテ、軍人軍屬ニアラザル被告人ニ付テハ、保釋ヲ許ス事ガ出來ルヤウニナツテアル、第十三ニハ搜查中ニ強制ノ處分ヲ要スル時ハ、之ヲ豫審官ニ請求シ得ルノ規定ヲ設ケテアリマス、第十四ニハ現行法ニ於ケル審問ニ相當スル處分ヲ豫審ト改メマシタ、又判決ニ相當スル審級ヲ公判ト改メテアリマス、現行法ニ於ケル長官ノ命令ニ依ツテ審問及判決ニ著手スルノ制度ヲ改メマシテ、長官ノ命令ヲ受ケタル處ノ檢察官ノ請求又ハ公訴提起ニ依ツテ豫審又ハ公判ヲ開始スル事ノ制度ニ改メテアリマス、豫審ハ之ヲ起訴前ノ處分ダト云フ事ニナツテ居リマス、第十五ニハ關席裁判ノ制ヲ廢止シテアリマス、第十六ニハ再審ニ關スル規定ニ變更ヲ加ヘテアリマス、第十七ニハ新タニ執行ニ關スル規定ヲ設ケテアリマス、第十八ニハ皇族ニ關スル處ノ事項ハ是ハ皇室令ヲ以テ規定スベキモノト認メマシテ、此法案中ニ規定シテアリマセヌ、第十九ニハ附帶申訴ノ制ヲナクシテアリマス、是ガ軍法會議ノ改正ノ要旨デアリマス、軍法會議ノ外ニ尙種々ナル法案ガ出テ居リマスルガ是ハ既ニ陸軍大臣ガ説明シマシタノデ以テ其要旨ヲ盡シテアリマスルノデ、私カラ別ニ申上ゲマセヌ、大要此ノ如クデアリマス、是ヨリ詳細ナコトハ、此當局者ガ來テ居リマスルノデ、夫カラ説明ヲ申上ゲ又質問ニ對シマシテ御答ヲ申上ゲルコトニ致シマス

○委員長(松室致君) 海軍ハ、

○政府委員 井出謙治君) 陸軍ト殆ド同ジデアリマデ説明ヲ省略致シマス

○政府委員(志水小一郎君) 前ノト違ツタ處ヲ説明申上ゲマセウカ

○委員長(松室致君) 次官ガ御説明ハ極ク大略ドウ云フ風ニ變更ニナツテ居リマスカ、細カイコトガ分リマセヌカラ、ソレヲ一應御説明ヲ願ヒマス、改正案ト現行法ト違フ所ヲモウ少シ詳シク承リタイ

○政府委員(志水小一郎君) 先ヅ第四十二帝國議會ニ提出致シマシタ案ト此度ノ案トハ、僅ニ違ツテ居リマスガ、其違ツテ居リマス事ヲ申上ゲマス、ソレハ第一ニ陸軍補充條令ノ改正ヲ致シマス、是マデ准尉ト云フモノガアリマシタノヲ廢止シタノデアリマス、從ツテ此准尉ニ係ル規定ヲ削除シマシタ、是ガ第一、ソレカラ次ハ之モ矢張り陸軍補充條令改正ノ結果デアリマス、陸軍ノ士官候補者デアリマスガ、士官候補者ト申シマスノハ御承知ノ如ク、士官候補生、主計候補生、軍醫候補生、獸醫候補生ト申シマスモノヲ之ヲ總稱シテ此本案デハ士官候補者ト云ツテ居リマス、而シテ此士官候補者ハ官等モ階級モ是マデノ制度デハ有テマセヌガ、ソレハ唯今申上ゲマシタ補充令ノ改正ニ依リマシテ、士官ノ候補中ニ士官ガアリ、准士官ガアリ、下士官アルト云フコトニナリマス、要スルニ所謂士官ノ候補者ノ内容ガ制度ノ改正ニ依ツテ違ツテ參リマシタ、ソレダカラシテ其改正規定ニ相伴フガ如ク修正ヲ致シマシタ、要スルニ實際ノ事物ニ適合スルヤウニ改正ヲ致シマシタ、是ガ第二、ソレカラ第三ニハ此法案ハ辯護ヲ許シマシタ、其辯護ヲ許シマシタノハ、普通ノ軍法會議ニ付イテノミ許スモノデアツテ、主トシテ戰地等ニ於テ設ケマスル所ノ所謂特設軍法會議ニハ辯護ノ制ハ用キナイ事ニナツテ居ルノデアリマス、所ガ原案デハ再審ノ場合ニハ特設軍法會議タルト、普通ノ軍法會議タルトヲ選バズ、辯護ヲ許スカノヤウニ讀ミヤウニ依ツテハ見エルノデアリマス、僅カノ文字ヲ以テ此案ノ趣旨ヲ明カニシ、徹底スルヤウニ致シマシタ、ソレカラ次ハ即チ本案ノ最後ノ條デアリマス、陸軍案ノ五百六十一條、五百六十二條ニ至リマシテ、ソレハ他ノ法律中ニ理事ノ職名ガ書イテアリマス、ソレハ僅カニ二ツノ法律デ定メテアリマス、一ハ民法ノ特別遺言ノ規定、即チ

民法千七十九條、之ニ「從軍中疾病傷痕其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル軍人及ビ軍屬ハ證人二人以上ノ立會ヲ以テ口頭ニテ遺言ヲ爲スコトヲ得」、ト云フ規定デアリマス、其第二項ニ「前項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル遺言ハ證人其趣旨ヲ筆記シテ之ニ署名捺印シ且證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ遲滞ナク理事又ハ主理ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非ザレバ其效ナシ」ト斯ウ云フ規定デアリマス、ソコデ先刻説明サレマシタ如ク理事ノ名稱ヲ變ヘテ陸軍法務官海軍法務官トシタノデアリマスカラ、其名稱變更ノ爲ニ此法律ノ改正ヲセンケレバナラス、即チ他ノ法律ニ依リテ理事主理ナドノ職名ハ陸軍法務官トスル規定ヲ設ケタルデアリマス、ソレカラモウ一ツハ、ソレハ明治三十三年法律第十三號、是ハ即チ民法ノ規定ノ應用法デアリマス、是ハ其確認ヲ求ムルノハ何レノ地ニアリ、何レノ場所ニアリテモ理事主理ニ求メレバ宜イノデアリマスガ、要スルニ民法ノ應用法ガ書イテアルノデ、ソレヲ矢張り理事主理ニ變ヘルニ法務官ヲ以テスルト云フ法デアリマス、其爲ニ陸軍案デハ最後ノ一條ガ設ケラレタノデ、是ガ唯今申シマシタ如ク此前ニ提出イタシマシタ、コチラノ特別委員會會御審議ニナリマシタ案ト、此度ノ案ト違フ次第デアリマス、大體ニ付イテ現行法トドナ違ヒガアルカト云フコトヲ申セト云フ御話デアリマスカラ、前ノ案ト此案ト違フ所ノ點ヲ申上ゲマシタ

○男爵坂本俊篤君 前回ノ提出ト、本回ノ提出ト異ツタ點ノ御説明ハ承リマシタガ、更ニドウカ此以外ニ唯今陸軍次官ヨリ大要ノ御説明ニナリマシタ其事柄ニ付イテ、更ニ專門委員ノ詳シイ説明ヲ願ヒマス

○政府委員(志水小一郎君) 現行法ト本案トノ異同ヲモウ少シ詳シク御話致シマスノニ先立チマシタ、此法案ヲ起草イタシマシタ今日ニ至リマスマデノ沿革ヲ、モウ少シ詳シク申上ゲテ置キタイ、現行法ノ餘リ簡單ニ過ギマシタ、如何ニ直接急施ヲ貴ブ軍事裁判手續トハ申シナガラ、如何ニモ不備デアルト云フコトハ、唯今一通リ説明サレマシタ、デソレハ元來現行ノ軍事裁判手續ト申シマスモノハ、訴訟ノ形式ヲ備ヘテ居リマセヌノデ、訴ヘガ

アルノデハナク、原告官タル檢察官ガアルノデモナク、此軍法會議ノ審理ト云フモノハ、全ク長官ノ命令ニ依ッテ始ルノデアリマス、サウシテ犯罪ヲ捜査スルノニハ隊長ガアリマス、憲兵モアリマス、ソレカラ審問ト申シマシテ即チ普通裁判ノ豫審ニ相當スルコトデアリマス、其審問ヲ致シマスノニハ、理事アリ主理アリ、此理コトカ主理トカ申シマスモノハ、事實ニ於テハ軍事裁判ノ中樞ヲ成シテ居ルト言ッテモ宜カラウト思フ、デ事實ノ認定、法律ノ適用、主トシテ主任ノ理事主理ノ意見ニ依リテ定マルト云フコトニナッテ居ルノデ、デ今申サレマス如ク、審理ハ素ヨリ秘密デ之ヲ公開イタシマセヌ、被告人ニハ一切辯護人ヲ用ヒルコトヲ許シマセヌ、其ノ狀態ハ被告人ニ對スルノ攻撃ノ器具ハ備ハッテ居ル、之ニ反シテ被告人側ニハ防禦ノ器具ト云フモノハ備ハッテ居ナイト云フヤウナ狀態ニナッテ居ルノデ、ソレデ裁判其者モ第一審ガ即チ終審デアリマシテ、如何ナル重要ナル事件ト雖モ、確定前ニハ一切上訴ヲ許シマセヌ事ニナッテ居リマス、且ツ其裁判ハ長官ノ認可ヲ經ルニアラザレバ宣告スル事ヲ得マセヌ、サウシテ宣告スレバ即チ確定致ス、斯ウ云フ譯ニナル、尤モ再議ト云フ制度ガゴザイマス、再議議スル、再議ノ制ガアリマシテ、軍法會議ノ長官ガ、軍法會議ノ裁判ヲ法律ニ違フモノト認メマシタ場合ニハ、之ニ對シテ再議ヲ命ズルト云フコトニナッテ居ル、併ナガラ所謂再議ハ被告人ガ己ニ對シテ如何ナル裁判ガアッタト云フコトモ知ラナイ前ノ救済デアリマシテ、普通裁判制度ニ於ケル上訴ト云ハンガ如キモノト全ク違ヒマス、到底十分ノ救済ニハナリマセヌ、斯ノ如キ狀態デハ裁判ノ公正ヲ確保スルコトモ出來マセズ、被告人ノ利益ヲ保持スルコトモ出來マセズ、又軍事裁判ノ威信ヲ保ツニモ不十分デアルト云フコトニナルノデ、幸ニ是マデ餘リ怨惡不服ノ聲ヲ聞キマセヌノハ、制度其モノデハナクシテ、要スルニ事ニ當リマス者ガ慎重事ニ從フガ爲デアルト、斯ウ思ッテ居ル、ソレデ制度ノ時勢ニ適セズシテ甚ダ不十分ノモノデアルト云フコトハ今申上ゲマシタ通りデアリマス、畢竟軍事裁判制度ニ改正ノ必要ヲ大キニ輿論ニ喚起シタ次第デアリマス、ソレデ明治四十一年、二十四回帝國議會ニ改正陸軍刑法及改正海軍刑法案ヲ提出イタシマシタ時ニ當ッテ、衆議院ニ於テ此兩案ノ審議ニ際シテ、遂ニ議員中カラ質問ガアリマシテ、其質問ノ要旨ハ、政府ハ陸海軍刑法ノ改正ハ其必要ヲ認メラレタガ、治罪法ヲ改正シテ辯護、上訴等ノ制ヲ設クルノ必要ハ御認メニナリマセヌデアラウカ、斯ウ云フ質問デアリマス、當時ノ陸海軍大臣ハ之ニ答ヘテ、其必要モ認ムルト云フ事ヲ答ヘラレテ、且改正ノ程度範圍等ニ付テハ、研究中デアルト云フ事ヲ答ヘラレタ次第デ、爾來數年間々衆議院ニ於テ、治罪法ノ改正ニ關シテ催促の質問ノ無カッタ事ハアリマセヌ、所ガ後遂ニ其催促の質問ガ止ミマシタ、其止ミマシタノハ決シテ議會ニ於テモ、一般社會ニ於テモ、治罪法改正ノ必要ヲ遺忘シタ譯デハナカラウト存ジマス、要スルニ陸海軍共ニ既ニ此改正ノ議ヲ決シテ、從ッテ自分等ガ眞面目ニ其調査ニ從事スル事トナリマシタカラデアラウト思フ、デ茲ニ議案調査ノ始末ヲ簡單ニ申上ゲマスレバ、陸海軍ニ於キマシテハ、主任者間ニ先ヅ改正ノ要領ト言ハンガ如キモノヲ數項ヲ協定イタシマシテ、之ニ依テ起草イタシマシタ、所ガ大正二年中ニ陸軍案海軍案共ニ一通リ出來マシタ、次デ陸海軍共ニ各々其部内ニ於テ調査委員ヲ設ケマシタ、其調査委員ハ申ス迄モナク、主理トカ理事トカ參事官ト云フ外ニ、將校ヲ混ヘマシテ組織ヲ致シマシタ、サウシテ各々部内ニ於テ調査ニ從事イタシマシタ事ガ凡ソ一年ニシテ調査ヲ終リマシタ、續イテ大正三年中ニ陸海軍共同調査委員ナルモノヲ設ケマシテ、其委員ニモ矢張り理事、主理等ノ外陸海軍部外ノ法律家數名ニ囑シマシテ、サウシテ調査委員ヲ組織イタシマシタ、爾來委員會ヲ開キマス事ガ無慮百數十回デアリマス、慎重ニ審議ヲ盡シマス事ガ約五年、漸ク一昨大正八年ニ至リマシテ此成案ヲ得タ次第デアリマスサウシテ此成案ハ御承知ノ通り、第四十二回帝國議會ニ提出致シマシテ、貴族院ニ於テ委員付託トナリマシテ、サウシテ特別委員ニ於テ一應審査ヲ遂ゲマシタモノデアリマス、其案ト此案トノ局部ノ違ヒハ唯今申シマシタ點デアリマス、ソレカラモウ少シ重

要ト思ヒマスル事ヲ申上ゲマス、御承知ノ如ク何處デモ軍隊ノ設ケアリマス國デハ、特ニ此軍事刑法、軍事裁判制度ト云フモノヲ設ケテ居リマセヌ所ハナイノデアリマス、サウシテ其軍事裁判ノ制度ハドンナモノデアルカト申シマス、普通ノ裁判制度ニ較ベマスルト云フト、皆多少ノ特色ヲ備ヘヌモノハアリマセヌ、サウシテ其特色ハ細目ニ至リマスルト、多少ノ異同ガ固ヨリアリマスケレドモ、何レノ軍裁判制度ト雖モ、其共通ノ精神ト云ハンガ如キモノガアルノデアリマス、其所謂共通ノ精神ト申シマスモノハ何ト申シマス、カ、「スピード」、プロセデユア「訴訟手續ノ敏速デアリマス」、詳シク申シマスルト茲ニ罪ヲ犯ス者ガアッテ軍ノ規律ヲ紊亂スル時ハ、成ルベク速ニ其事實ヲ取調ベテ、成ルベク速ニ之ニ對シテ法ヲ正シ、以テ軍紀ヲ肅スト云ハンガ如キコトデアリマス、此趣旨ハ時勢ノ傾向ニ依ッテ一時閑却セラレハ忘却セラル、ノ事例ガナキニシモアラズデアリマス、併ナガラ此軍隊ニ於テ、訴訟手續ノ敏速ト言ハンガ如キコトハ、元來軍隊ノ特色トデモ言ヒマス、軍隊ノ特色ニ伴フ必須ノ條件デアリマスガ爲ニ、一時ノ變調ハアリマスケレドモ、必ズ復舊イタシマス、各軍制ヲ通ジテ殆ド例外ナキコトニ至ルヤウデアリマス、寧ろ是ハ當然ノ事ト思ヒマス、然ルニ犯罪處分ヲ敏速ニスルト申シマス事ト裁判手續ヲ鄭重ニシテ人權ヲ尊重スルト申シマス事ハ、兎角ニ矛盾ヲ來タスノデアリマス、ソレダカラシテ、此軍事裁判制度ヲ設ケ又之ヲ改正スルニ當リテ、就中重要ニシテ且ツ面倒ナルノハ、此問題デアリマシテ、即チ此問題ヲ解決シ、且唯今申シマシタ兩者ノ必要ヲ如何ニ調和スルカト云フ事ニアルノデアリマス、デ強ヒテ必要モナイノニ軍紀問題ヲ云々シテ、人權問題ヲ閑却スルノ不可ナルト同様ニ、人權問題ヲ餘リニ過度ニ重視シテ、軍事ノ利益乃至其必要ヲ犧牲ニスルモ亦不可ナル事デアリマス、是等ノ問題ヲ解決スルニ付キマシテハ、本案ハ周到ノ注意ヲ拂ヒマシタ次第デアリマス、サウシテ所謂軍事上ノ利益乃至必要ト申シマシタ點ニ關シテハ、專ラ將校委員ノ意見ニ重キヲ置キマシタ、一般ノ法理ニ從ハザルベカラザルコトニ付

キマシテハ、主トシテ法律家、法曹ノ説ニ重キヲ置キマシタ次第アリマス、是カラ少シク節目ニ互ッテ現行法ト本案トノ異同ヲ申上ゲマスルコトハ、海軍ノ政府委員ニ譲リマシテ、私ノ申上ゲマスルコトハ、是デ一應中止イタシマス

○男爵(坂本俊篤君) 先刻私ノ希望イタシマシタノハ、前回提出ニナリマシタノト、今回ノ提出ノトノ異同ノ御説明ガ濟ミマシタナラバ、先刻陸軍次官ヨリ第一項カラ第十九項ニ互ッテ内容ノ説明ガゴザイマシタ其條項ニ付テ、政府委員ノ御説明ヲ願ヒタイ、斯ウ云フ考デゴザイマシタ、マダ前回提出ノト今回ノ分トノ説明ガ盡キズニ居ルノデゴザイマスレバ、此御説明ノ補足ヲ願ッテ上デ、唯今申シマシタヤウナ左様ナ順序ニ依ッテ、更ニ政府委員ノ御説明ヲ願ヒタイ、斯ウ存ジマス、是ハ私ノ希望デゴザイマス

○男爵小澤武雄君 唯今ノ御希望モ結構デゴザイマスガ、斯ウ云フ大部ナモノ、又澤山ノ法律ガアリマスノデ、ソレヲ當局者ノ 先ニ陸軍次官カラ述べラレタ所ノ上ニモウ一層詳シク云フコトハ、餘程ノドウモ時間ガ掛ラナクテハナラスコト、思ヒマスカラ、私ノ見ル所デアルト、ソレヲ點ハ此逐條ニ於テ御質問ニナッタ方ガ事柄ガ少クテ又銘々ノ疑問モ解ケ易イコトデハナイカト、私ハ思ヒマス、デ是ヲ諸君ノ御判斷ニ依ッテ決スルヤウニナリタイト思ヒマス

○磯部四郎君 至極ナンデゴザイマスガ、唯今説明ノゴザイマシタト一ノモノハ、若シ版ニシテアルモノナラバソレヲ委員ニ一冊宛頂戴イタシタイ、版ニシタモノガナイナラバ、莚蕪版ニデモシテ戴イタラ、大變ニ御趣意モ分リ易イヤウニ考ヘ、ラレマスガ、是ハ私ノ希望デゴザイマス、今一ッハ此大部ナルモノヲ、逐條審議ト云フコトニナリマシテハ、容易ナラスコトデゴザイマスルシ、何トカ之ヲ大體ニ於テ、各條ニ依ッテドウシテ行クト云フコトヲ大體決メテ、是ハドウセ今月一杯位ニ終ラスト、衆議院ノ方ガマダアリマスカラシテ、ナカ一之ヲ一條々ニヤッテ行カウト云フノハ、容易ナラスコトデゴザイマスカラ、此點ニ付テ一ツ委員ノ中デドウ云フ風ニ之ヲ議シテ

行ッタラ要便ヲ得ラレルモノデアアルカト云フコトヲ、議シテ見タイト云フノガ私ノ望デアリマス、唯今ノ御趣意ノ御説明ニナッタモノガ版ニシテアリマセウカ、アリマスナラバ頂戴スルト大變結構ニ思ヒマス

○政府委員(志水小一郎君) 只今磯部君カラ御要求ノ書物ハ若干ゴザイマス、ソレハ只今陸軍次官カラ説明セラレマシタ程度ノモノデアリマス、若干繁簡省略ハゴザイマスガ、大體アノ位ノ程度ノモノデゴザイマス、今チヨット揃ッテ居リマセウカラ、御必要デゴザイマスレバ、早速拵ヘマセウ

○磯部四郎君 ドウカーツ左様ニ

○男爵坂本俊篤君 只今ノ小澤男爵カラ御意見モゴザイマシタガ、ソレハ私ガ申述べタ希望ト少シ趣ノ趣意ノ徹底イタシマセヌノニ歸スル爲デアラウト存ジマス、私ノ申述べタ趣意ハ先刻陸軍次官ヨリ、殆ンド項目トモ申シマスル位ノ極ク概要ノ御説明ガゴザイマシテ、尙ホソレニ次官ガ附加ヘラレテ、此箇條ニ付テノ詳シイ説明ハ政府委員カラアル筈デアル、斯ウ云フコトノ御言葉ガゴザイマシタ、私ハ其コトニ付テ陸軍次官ヨリ申述べラレタル項目ニ付テ極ク概要、補足ト申シマセウカ、全般ニ互ッテ所ノ御説明ヲ同ヒタイ、斯ウ云フ趣意デゴザイマス、實ハ逐條ニ付テ質疑ヲ申上ゲルニ付テモ、私共斯様ナ事ノ不案内ナ者ハ、モウ少シ箇條ニ付テ御説明ヲ承ラスト、質問申上ゲタクモ、其心構ヘガ出來ナイヤウナ事ニナリマスカラ、ソレデ陸軍次官ノ御説明ノ補足トシテ、箇條ニ付テ若シ政府委員ニ於テ補足セラルベキ廉ガアリマスナラバ、其箇條ニ付テ御説明ヲ願ヒタイ、斯ウ云フ趣意デゴザイマス、ソレカラ尙ホ是ノ審査手續ニ付テハ、唯今磯部君カラノ御提議ガゴザイマシタガ、ドウカ斯ウ云フヤウナ順序ニ願ヒマシタラ如何カト私ハ存ジマス、ソレハ大體一應ノ御説明ガ濟ミマシタラ、其全般ヲ質問ノ目的ト致シテ、各委員カラ大體ノ質問ヲ一應スルコトニ願ヒマシテ、サウシテ一應總體ノ質問ガ終リマシタナラバ、或ハ小委員ト申シマスガ、サウ云フヤウナ手續ニナルヤウニ願ヒタイト、斯ウ存ジマス、一應ドウカ總體ヲ目的トシ

テ質問ヲ結了イタシタイト斯ウ存ジマス

○委員長(松室致君) 段々御説ガ出マシタガ、唯今坂本男爵カラ出マシタ御意見ハ如何デセウ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(松室致君) サウ云フ御意見ナレバサウ決メマシテ一ツ……

○政府委員(内田重成君) 此法案ノ重要トスル事項ニ付テ、項目的ニ陸軍次官ヨリ説明ヲ致サレマシタガ、尙ホ本案ノ編成及ビ内容ノ大體ニ付テ説明ヲ申上ゲマス、此改正案ハ是ハ二編ニ分レテ居リマシテ、第一編ガ軍法會議、第二編ガ訴訟手續及附則ト云フコトニ分類イタシテ居リマス、第一編ガ六章ニ分レマシテ、裁判權ニ關スルコト、管轄權ニ關スルコト、職員ニ關スルコト、審判機關ニ關スルコト、豫審機關ニ關スルコト、檢察機關、此六章ニ分ッテ居リマス、是ハ裁判所構成法ニ該當スル規定ヲ包含イタシテ居リマス、第二編ガ五章ニ分レマシテ、總則、始審、上告、再審、裁判ノ執行ト云フ風ニ分レテ居リマス、更ニ此總則ヲ十三節ニ分チマシテ、裁判官ノ除斥及回避、辯護及補佐、裁判、書類、送達、期間、被告人ノ召喚、勾引及勾留、被告人訊問、押収及搜索、檢證、證人訊問、鑑定、通譯ト云フ節ニ分チマシテ、始審ノ章ヲ細別イタシテ搜查、豫審、公訴、公判ノ四節ニ分チマシタノデアリマス此編成ハ陸海軍法案全ク同一デアリマシテ陸海軍ノ編成、名稱等ノ相違ニ依リマシテ生ズル所ノ違ヒヲ除クノ外ハ、殆ンド大部分規定ヲ同ウ致シテ居リマス次第デアリマス、陸軍法案ハ五百六十二條、海軍法案ガ五百六十一條ト云フコトニ相成ッテ居リマスルガ、斯ノ如ク陸海軍法案ノ條數ヲ異ニ致シマシタ點ハ、僅カニ海軍ニアッテ陸軍ニ無キ者、陸軍ニアッテ海軍ニナキモノガアリマスルノデ生ジタ差違デアリマスガ、此海軍法案ノ三百二十二條、三百三十八條、五百四十一條ト申シマスルノハ、是ハ陸軍法ニナイノデアリマス、ソレハ何レモ艦隊軍法會議ニ屬シマスル事件ハ、艦隊長官ハ時宜ニヨッテ陸上ノ軍法會議ニ移送スルコトガ出來ルト云フ便宜法ヲ作ッテ居リマスル、其關係ノ條文デアリマス、次ニ陸軍ニアリマシテ海軍ニ存シマセヌ規定ガ陸軍ノ五百四十

二條及五百四十三條五百五十三條五百六十一條アリマス、是ハ附則ノ部分ニアリマスル規定デ、現行法ノ缺席判決ノ規定ニ於キマシテ陸海軍異ニ致シテ居リマスル爲ニ生ジタ差異アリマス、ソレト陸軍ニ特有ナル内地ニアラザル師團軍法會議ニ關スル規定ガアリマスノデ、此兩者ノ差異ノ爲メニ法文ノ數ヲ異ニ致シタニ過ギナイ位デアリマス、此法案ノ大要ヲ申上ゲマスル前ニ、現行ノ陸海軍ノ軍法會議ノ訴訟手續裁判手續ヲ申上ゲマスルコトガ或ハ便宜カトモ考ヘマスルガ、是ハ詳シク申上ゲル程ノ必要モナイト考ヘマスルノデ、只一言ヲ附加ヘテ置キマスルガ、先ニ陸軍次官ノ綱領ヲ述ベラレマシタ中ニアリマスル通り、此現行陸海軍ノ治罪法ハ其規定ハ極メテ簡略デアリマシテ、陸軍治罪法ガ百一條、海軍治罪法ガ百六條、而カモ此法文中ニ於キマシテ軍法會議ノ構成權限ニ關シマスル部分ガ大部分ヲ占メテ居リマス、手續ニ關シマスル規定ハ極メテ簡單ナルモノデ、例ヘバ檢證、證人訊問、押收捜査ト云フ様ナ各個ノ處分ニ付キマシテモ、規定ニ付テ見マシテモ、僅ニ二條若クハ三條ト云フ様ナ簡單ナル規定ヲ以テ、證人訊問、檢證、捜査等ヲ爲ス事ガ出來ルト云フ權限ヲ書キマシタダケデ、其手續ニ付キマシテハ、何等ノ規定モナイト云フ様ナコトデアリマスル、ソレカラ別ニ現行法ニ於キマシテハ認廷ニ於ケル辯論ト云フコトモアリマセヌ、從ッテ認廷内ニ檢察官ノ立場ニ居リマスル人ガアリマセヌ、デ訴訟ノ仕方ハ所謂訴訟ト云フ事モ出來ザル形式デアリマス、長官ヨリ此被告事件ニ付テ審判ヲスベシト云フ命令ガアリマシテモ、其命令ニ從ッテ事件ノ取調ベラシテ判斷ラシ、之ヲ長官ニ差出シテ長官ノ認可ヲ得テ、其裁判ノ言渡ヲナシ、執行ヲナスト云フニ過ギザル、極メテ單純ナル遣リ方デアリマスルノデ、現行法ノ裁判ノ仕方等ニ付キマシテモ、説明ハ之ヲ略シテ置キマス、此法案ノ規定ノ内容ニ付キマシテ、重ナル項目ノ説明ヲ申上ゲマスガ、第一ニ此裁判權ノ範圍ニ付キマシテ申上ゲマスルト、此軍法會議ノ裁判ヲ致シマスル事柄ハ、刑事ノ裁判ヲ致シマシテ、民事ニ關シマスル裁判ハ致サナイノデアリマス、現行法ハ犯罪ニ依ッテ生ジ

タル損害ノ賠償ヲ請求致シマス、私訴ノ裁判ヲ致シテ居ッタノデアリマス、是ハ軍法會議ニ於テハ、民事ノ性質ヲ有スル私訴ノ裁判ヲナス事ハ不當デアアルト云フ見地デ、私訴ニ關スル裁判制度ハ政府ハ之ヲ廢シタノデアリマス、尤モ此現行法ニ於キマシテモ、軍法會議ノ私訴裁判ニ關スル規定ハ、僅ニ私訴ノ裁判ヲナスト云フ事ノ一條文ガアルダケデアル、ドウ云フ手續ニ依ッテ私訴ノ裁判ヲナスト云フ事ハ規定ガナイノデアリマス、唯條理ニ依ッテ是迄裁判ヲ致シテ居ルト云フニ過ギナイノデアリマス、法案ニ於キマシテハ、此私訴ノ裁判ハ致サナイノデアリマス、全ク此私訴ニ依ッテ生ズル所ノ利益ヲ捨テルト云フ譯ニモ參リマセヌノデ、之ニ代ハルベキ極ク簡單ナル損害回復ニ關スル方法ヲ認メマシテ、贓物ノ返還ニ關スル裁判ト、當事者ニ於テ異存ナキ事件ニ付テハ損害賠償ヲ爲スベシト云フ、附帶ノ裁判ヲ爲ス事ガ出來ルト云フ規定ヲ設ケテ居リマス、是ハ本案ノ海軍案デ申スト四百十四條、四百十五條ノ所ニ、極ク私訴ニ代ルベキ簡單ナル損害回復ノ方法ノ規定ヲ設ケマシタ、軍法會議ノ裁判權ニ屬シマスル人ノ範圍ニ付キマシテハ、是ハ大體現行法ヲ土臺ニ置キマシタ、現行法ノ中デ軍法會議ノ裁判權ニ屬セシムル事ヲ必要トシナイト云フモノハ之ヲ省ク、尙ホ現行法ニ無クテ軍法會議ノ裁判權トスルコトヲ可トスルモノハ、之ヲ入レルト云フコトニ多少ノ増減ヲ致シマシタ點ガアリマス、軍法會議ニ屬シマスル人ノ範圍ノ詳細ハ各條審議ノ際ニ更ニ申上ゲマスルガ、唯今申シマスルヤウニ、現行法ニ比シテ少シク擴メマシタ點ト、之ヲ縮メマシタ點ト此二通りガアリマス、ト云フ事ヲ御承知置キテ願ヒマス、ソレカラ軍法會議ヲドウ云フ風ニ求メルカト云フト、軍法會議ノ設置ト申シマスガ、是ハ陸軍及ビ海軍ニ依リマシテ編成ノ異ナルニ從ッテ、自然此軍法會議ノ設置及ビ名稱ヲ異ニスル譯デアリマス、大體軍法會議ノ設置ニ付キマシテハ、常置ノモノト臨時ノモノト此二通りガアリマスルノデ、臨時制ノモノハ法案ニ於キマシテ之ヲ特設軍法會議ト名付ケテ居リマス、高等軍法會議、東京軍法會議、鎮守府軍法會議、要港部軍法會議、是

レダケガ海軍ニ於ケル常設ノ軍法會議デアリマス、艦隊軍法會議、外國派遣軍艦ニ設クルモノ、ソレカラ合圍地ニ設クル軍法會議、戰時事變ノ際ニ必要トスル部隊ニ設ケル軍法會議、是ガ特設軍法會議ト云フ事ニ致シテ居リマス、此軍法會議ノ名前ハ唯今申シマス通り、陸軍ニ於キマシテハ矢張り此分類ヲ認メマスルガ、其名稱等ハ之ヲ異ニ致シマスル次第デアリマス、海軍ニ於キマシテモ此軍法會議ノ設置ニ付イテ現行ト違ヒマスル點ハ、現行法ニ於キマシテハ要港部ニ於テハ軍法會議ヲ設ケザル規定ガアリマスルガ、法案ハ要港部ニモ常設ノ軍法會議ヲ設ケルコトヲ得ルト云フ事ニ致シマシテ、但シ要港部ハ人員モ少ク、從ッテ事件ノ數モ少イノデアルカラ、其場所ニ依ッテハ之ヲ設ケザルヲ得ト云フ例外ノ規定ヲ置キマシタノデアリマス、次ニ此軍法會議ノ機關及ビ訴訟手續ノ大要ヲ申上ゲマスルガ、軍法會議ノ主モナル機關ヲ檢察機關、豫審機關、審判機關ノ三ツニ分カツコトガ出來マス、訴訟手續ノ規定ノ大部分ハ三個ノ機關ノ行動ニ關スルモノデアリマス、第一ノ檢察機關ニ屬シマスル所ノ人ハ、長官、檢察官、軍司法檢察官、是ガ此檢察機關ニ屬スル主ナル人デアリマス、檢察官ハ法務官ノ中カラ長官ガ之ヲ命ズルト云フ事ニ致シテ居リマス、司法檢察官ハ軍司法檢察官デアリマスガ、是ハ先程陸軍大臣ノ綱領中ニ述ベラレマシタ通りニ、憲兵ノ將校、下士部隊ノ長及ビ指定シタル所ノ司法檢察官、是ガ軍司法檢察官ト相成ルノデアリマス、檢察機關ノ職務ノ主ナルモノハ、犯罪ノ捜査、控訴權ノ行使等ノ二ツヲ以テ職務ノ主ナルモノト致シマスル、御承知ノ通り犯罪ノ捜査ハ如何ナル原因ニ依ルトヲ問ハズ捜査權ヲ有スル者ハ、犯罪アリト思料スル時ニ於テハ捜査ニ著手スルコトハ出來ル、其捜査ヲ爲スニ付テハ目的ヲ達スルニ必要ナル取調ベラ爲スコトガ出來ル、但シ此強制力ヲ用ユルトコロノ處分ハ、殊ニ法律ニ決メテアル場合デナケレバ用ユルコトガ出來ナイ、デ是等ノ捜査官ノ權限ニ付キマシテハ、現行ノ刑事訴訟法ニ於テ捜査官ノ有シマスル權限ト大差ハナイノデアリマス、尙ホ此法案ニ於キマシテハ、捜査中ニ殊ニ此強

制處分ヲ必要トスル場合ニ於テハ、豫審官ニ向テ捜査中ニ強制處分ヲ請求スル事ヲ得ト云フ規定ヲ設ケマシタノデアリマス、未ダ豫審ノ開始前ニ當テ豫審官ガ働キヲスル場合ヲ認メマシタ、ソレカラ檢察官又ハ司法警察官ガ捜査ヲ終リマシタ場合ニハ、之ヲ長官ニ報告スルト云フ事ニ致シテ居リマス、是ガ普通ノ刑事訴訟法ニハナイ規定デアリマス、是迄ノ說明中ニ長官ニ關シマスル說明ハマダ十分デナカッタカトモ思ヒマスルガ、此法案ニ於キマシテ長官ト申シマスルノハ、海軍ニ於テハ高等軍法會議、東京軍法會議ハ海軍大臣ヲ以テ長官トス、鎮守府軍法會議ハ鎮守府司令長官ヲ以テ長官トス、要港部軍法會議ハ要港部司令官ヲ以テ長官トス、特設軍法會議ハ軍法會議ヲ設置シタル部隊又ハ地域ノ指揮官ヲ以テ長官トスト云フ事ニ相成ッテ居リマス、ソレデ檢察官、司法警察官ガ、捜査ヲ終リマシタナラバ、各々其屬スル所ノ長官ニ之ヲ報告致シマスル、長官ガ捜査ノ報告ヲ受ケマシタ場合ニハ、檢察官ニ向テ必要ナル命令ヲ發シマスル、其命令ノ種類ニ公訴ヲ起セト云フ命令、ソレカラ豫審ノ請求ヲ爲スベシト云フ命令、ソレカラ他ノ管轄軍法會議又ハ相當官署ニ之ヲ送レト云フ命令トガアリマス、檢察官ハ其命令ノ種類ニ依ッテ働キヲ起スト云フコトニナッテ居リマス、檢察官一己ノ考デハ、捜査ノ結果ニ付テハ更ニ第二ノ働キハ起シマセヌ、長官ノ意圖ニ從ッテ檢察官ノ働キヲ起スト云フ立場ニナッテ居ルノデアリマス、尙ホ先ニ於テ述べル機會ガアルカモ知レマセヌガ、ソレデ捜査ノ結果ニ付キマシテ之ヲ更ニ手續ヲ進メテ行クカ又ハ其儘不起訴ノ處分ニスルカト云フヤウナコトニ付キマシテハ決定ハ、長官之ヲナスト云フコトニ相成ルノデアリマス、次ニ此豫審機關ニ付キ少シク申上ゲタイト思ヒマス、本案ハ此判決軍法會議ニ對シテ判決ヲ致シマスル軍法會議ニ對シテ、此刑罰權ノ確定ヲ求メマスル手續ヲ以テ、公訴ノ提起ト云フコトニ致シテ居リマス、此公訴ノ提起ニ依ッテ初メテ訴訟ハ開始スベキモノデアルト云フコトニ致シマスルノデ、此公訴ノ提起ハ、捜査ノ結果ニ依ッテ起リマス場合ト、豫審機關ナリ、他ノ機關ニ委ネマシタ所ノ豫審

ノ結果ニ依ッテ公訴ノ提起ナル場合ト、此二ツノ場合ガアリマス、ソレデ此豫審ハ檢察官ノ致シマスル捜査ト形式ヲ異ニ致シテ居リマスケレドモ、目的ヲ同ジクスルモノデアリマシテ、判決軍法會議デ審理ヲスルカドウカト云フコトヲ決定シマスル爲ニ、必要トスル所ノ材料ヲ蒐メルト云フノガ、豫審ノ目的デアルト云フコトニ致シマシタ、ソレデ此豫審ハ矢張り公訴提起前ノ手續ト云フコトニ致シマシタ、從ッテ豫審ノ取調ハ刑罰權ノ確定ヲ目的トスルモノデナイト云フ立前ヲ執リマシタノデアリマス、色々ノ豫審ノ規定ニ付キマシテモ、現行ノ刑事訴訟法ノ規定トハ違フ規定ニ相成リマシタ、此點ハ大體刑事訴訟法ノ改正草案ニ於キマシテ研究セラレマシタ所ヲ參酌イタシマシテ、斯ノ如キ規定ヲ設ケマシタノデアリマス、ソレカラ此豫審ハ豫審官ガ之ヲ行フ、豫審官ハ法務官ノ中カラ長官ガ之ヲ命ズルト云フコトガ本則トナッテ居リマス、矢張り此豫審ヲ致シマスル者ハ本則トシテハ法務官デアルト云フコトデアリマス、唯場所ニ依リマシテハ法務官ノ不足ナル所ガアリマス、之ニ代ハルベキ人ヲ任命スル事ガ生ジテ參リマス、デ豫審ノ執行ニ付キマシテハ、被告人ノ訊問、證人ノ訊問、捜査鑑定其他必要ナル所ノ處分ヲスルコトガ出來マス、強制力ヲ用フルト云フ權限ニ於キマシテハ檢察官ノ捜査ニ付テ有スル所ノ權限ヨリ廣キ權限ヲ持ッテ居ルモノデアリマス、此法案ノ豫審ハ、唯今申上ゲルヤウナ公訴提起前ノ手續ト致シマス爲ニ、此豫審終了後ノ處置ニ付キマシテモ、此現行ノ刑事訴訟法等ノ規定トハ之ヲ違ヘテ居リマス、豫審官ガ矢張り決定ノ權限ヲ持ッテ居リマセヌノデ、豫審官ハ必要ナル取調ヲ終了イタシマシタ場合ニハ、書類及ビ證據物ヲ檢察官ノ方ニ送ッテ檢察官ハソレニ意見ヲ付シテ長官ニ終了ノ報告ヲ致シマス、長官ニ於テ此終了報告ヲ受ケタル後ニ、其事件ノ内容ニ鑑ミテ、檢察官ニ對シマシテ公訴ヲ提起スベシ、又ハ不起訴ノ處分ヲ爲スベシ、又ハ他ノ軍法會議若クハ相當官署ニ之ヲ送ルベシト云フ、何レカノ命令ヲ發スルコトニ相成ルノデアリマス、此豫審ニ相當イタシマスル現行ノ陸海軍治罪法ハ、之ヲ審問ト

稱シテ居リマス、矢張り此審問ハ理事又ハ主理ガ之ヲ行フ、此審問ニ著手シマスルニハ、長官ノ命令アルコトヲ必要ト致シマス、審問ノ後ニ矢張り之ヲ長官ニ其結果ヲ具申スルト云フコトニナッテ居リマス、結果ヲ具申シタ後ニ於テ、長官ハ之ヲ更ニ判決軍法會議ニ付スルカ、免訴スルカト云フコトヲ、理事又ハ主理ノ意見ニ應ジテ之ヲ決定スルト云フ立前ニ、現今ハナッテ居リマス、此點ニ付キマシテハ、此法案ノ規定ト相類似スルト云フコトニ相成リマシタノデ、檢察官ノ致シマスル捜査ノ結果、又ハ此豫審ノ結果、長官ガ公訴提起ノ命令ヲ發シマシタ場合ニ、檢察官ハ軍法會議ニ公訴ヲ起スト云フ事ニ相成リマス、此長官ノ公訴提起ヲ命ズルカ、又ハ之ヲ不起訴ト爲スカト云フコトニ付キマシテハ、其事件ノ性質及ビ犯罪ノ情狀等ニ依リマシテ長官ガ之ヲ決定致シマスル、犯罪アリト云フ場合ニ於キマシテモ、相當ノ斟酌ヲ用ヒテ、起訴セザルコトヲ得ル、所謂任意主義ニ犯罪訴追ニ付キマシテノ任意主義ヲ採用イタシテ居リマス、是ハ現行ノ實際ニ於キマシテモ、從來實際ニ於キマシテ、審判ノ命令權ニ任意主義ヲ加味イタシテ居リマス、ソレニ依テ好結果ヲ得テ居ルト云フ實情ニ鑑ミテ此法案ニ於テモ、任意主義ヲ採ルト云フコトヲ明カニ致シマシタノデ、此任意主義ヲ採リマシタ以上、公訴ヲ起シマシタ後ニ於キマシテモ、公訴ノ執行上ニ付キマシテ、長官ノ處分ノ權ヲ認メルコトガ相當デアルト云フコトニ致シテ、長官ハ公訴取消ヲ命ズルコトヲ得ルト云フ規定ヲ、此法文中ニ設ケマシタノデアリマス、次ニ此審判期間ノ大體ヲ申上ゲマス、軍法會議ノ審判ハ裁判官五人ヲ以テ構成シタル所ノ合議體ニ於テ致シマス、特設軍法會議ニ限ッテハ構成員ヲ三人ニ減ズルコトヲ得マス、其他特設ニ非ザル所ノ軍法會議ハ常ニ五人ト云フコトニ致シマス、裁判官ハ判士法務官ヲ以テ之ニ充テルト云フコトニシテ居リマス、判士ハ將校ヲ以テ之ニ充テマス、即チ將校ニ判士ト云フ辭令ヲ與ヘマス、判士トナル所ノ將校ハ被告人ト同等若クハソレ以上ノ官等ニ居ル者デアルト云フ必要ト致シマス、併シ餘リ官等ニ於テ甚ダシキ懸隔アル人デハイ

ケナイト云フコトニ致シテ居ッテ、是ハ法文ノ中ニ、被告人ガ下士官又ハ兵卒デアッタ時ニ於テハドウ云フ人ガ判士ニ相成ル、ソレカラ尉官デアッタ場合ニハドノ位ノ程度ノ人ガ判士ニ相成ルト云フコトヲ細カク區分ヲ致シテ居リマス、其ノ裁判官ノ構成ニ付キマシテハ、高等軍法會議ト、高等軍法會議ニアラザル他ノ軍法會議トノ間ニ差別ガアリマス、高等軍法會議ハ判士ガ三人デ、法務官ガ二人、其他ノ軍法會議ハ判士四人法務官一人ト云フコトニ、其裁判官ノ構成ガ相成ルノデアリマス、詰リ高等軍法會議ハ、法律分テ餘計ニ加味スルト云フコトニ相成ルノデアリマス、サウシテ此判士ノ官等ニ付キマシテハ、高等軍法會議ノ判士タル者ハ、其他ノ軍法會議ノ判士ヨリ一段高キ者ヲ以テ之ニ充テルト云フ風ニ定メテ居リマス、軍法會議ノ裁判官タル所ノ判士ハ、軍人ヲ以テ之ニ充テルト云フコトガ、軍法會議制度ノ一般ノ特色ト相成ッテ居ルヤウデアリマス、是ハ軍人及ビ軍事ノ實情ヲ知リ、軍人ノ氣風ヲ能ク解シテ居ル者ヲ以テ裁判官トスルト云フコトガ、現在ニ於テ必要且ツ正當デアル、是ニ付キマシテハ、歷史上ノイロ／＼ナ理由モアリマセウガ、事實ニ於テソレガ必要デアル、此點ハ丁度一般ノ司法制度ニ陪審制度ヲ入レルト云フ趣意ト、一部ニ於テ能ク似テ居リマス、譯デアリマス、此軍法會議ニ陪審制ハ要ラスカト云フヤウナ問題ニ付キマシテハ、此軍法會議ニ陪審制ナシト云フコトノ理由ノ説明ニ、此點ガ相成ルヤウデアリマス、是デ刑事訴訟ノ手續ニ於キマシテ、審判ノ主ナルモノハ公判ニ於テ行ハルモノデアリマス、此法案ニ採リマシタ所ノ公判ノ法式ハ、矢張り刑事訴訟法ニ定メテ居リマス、所ノ法式ト同ジ風ニ致シマシテ、公判期日ニ於キマシテハ、檢察官、被告人及ビ軍法會議ノ職員、是ガ集リマシテ、サウシテ此原被兩造ハ、攻撃防禦ノ方法ヲ盡シテ、裁判所タル所ノ軍法會議ハ雙方ノ陳述ヲ聽キ、職權ニ屬スル取調ヲ致シテ、之ヲ基礎トシテ裁判ヲスルト云フコトニ致シテ居リマス、公判廷ノ組織ハ裁判官、檢察官、錄事、此錄事ト申シマスノハ、普通ノ書記ニ當リマス、此錄事ノ外ニ被告人、其他ノ訴訟關係人ガ必ズ

在廷シテ之ヲ行フト云フコトヲ原則ト致シテ居リマス、被告人ハ原則トシテ公判廷ニ居ラナケレバナラヌ、唯被告人ナシニ公判ヲ開クト云フコトハ、極メテ例外ノ場合ニ限ルノデアルト云フ事ニ致シマシタ、隨テ此現行法ニ認メマス所ノ缺席裁判ノ制度ハ、之ヲ止メマシタノデアリマス、僅ニ罰金拘留ニ當リマスル罪ト云フヤウナ、極メテ微細ナル者ニ付テ、例外ノ場合ヲ認メマシタダケデアリマス、此公判廷ニ於キマシテ出廷ヲ要スル人ノ中ニ辯護人ノ規定ヲ致シマシタ、此改正案ガ辯護ニ付キマシテ規定イタシマシタ所ノ要領ハ、此辯護人ノ選任ハ公訴ヲ提起シタ後ニ限ッテ選任スルコトガ出來ル、隨テ此ノ豫審中ニハ此ノ法案ハ辯護人ナル者ヲ認メヌ、公判ノ辯護人ハ被告人一人ニ付テ二人ヲ超ユルコトヲ得ザルコト、ソレカラ死刑、無期又ハ一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ當ルベキ事件ニ付テハ、辯護人ナクシテ公判ヲ開クヲ得ザルコト、被告人ガ心神喪失者又ハ耗弱者タル疑アル場合、聾者啞者、其他必要ト認メル場合ニ於テハ、辯護人ナキ場合ニ於テハ、軍法會議ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スルコトヲ得ル、此ノ特設軍法會議ニ付テハ辯護ノ規定ヲ適用セザルコト、此辯護人タル資格者ハ將校同相當官、ソレカラ陸海軍ノ高等文官及ビ普通ノ辯護士ト云フコトニ致シテ居リマス、此公判ニ於キマシテ辯論ノ公開デアルトカ、ソレカラ公判ノ審理秩序ヲ維持スルコト、裁判ノ法式ト云フヤウナモノニ付キマシテハ、軍ノ必要上特別ノ規定ヲ要シマスル部分ニ付キマシテ、一二規定イタシマシタモノヲ除クノ外ハ、大體普通裁判所ノ公判手續ニ異リマセヌ、唯今マデ申述ベマシタ點ニ依ッテ公判ノ主タル點ニ付テノ内容ノ大略ヲ申上ゲマシタノデアリマス、其外、上告、再審、裁判執行等ニ於キマシテ、細イ規定ヲ致シテ居リマス、是ハ各章御審査ノ際、其ノ場所場所ニ於キマシテ申上ゲタ方ガ、却ッテ御便宜デアラウカト考ヘマス、内容ノ大要ノ説明ハ是デ止メ置キマス

○委員長(松室致君) 御質問ハアリマセヌデスカ、御質問ガアリマスレバ今一回開キマスガ、若シ御質問ガナケレバ今小委員ヲ設ケヤウト云フ意見ガ出テ

居リマスカラ……

○男爵佐竹義準君 質問ハ澤山アルノデゴザイマスガ、連モ一回位デハ濟ミマセヌカラ、成ルベク早く進ム方法ヲ御執リニナリタイ

○委員長(松室致君) ソレデハ如何デゴザイマス、小委員ヲ選ンデ……

○男爵坂本俊篤君 私ハチヨット趣ガ違ヒマス、今大體ノ御説明ガ濟ミマシタカラ大體ニ付テノ質問ヲサレテ、カウシテ其質問ノ終ッタ所デ小委員、斯ウ云フモノヲ一ツ設ケタイ考デアリマス、今承レバ大分御質問ガアラウト思ヒマス

○委員長(松室致君) ソレデハ今日ハ是デヤメテ置キマス、サウスレバ次ノ會ハイツガ宜シウゴザイマセウ

○磯部四郎君 明日御始メ下サイマシテ、サウシテ明後日アタリ……

○委員長(松室致君) 明日若シ本會議ガナケレバ午前十時、本會議ガアレバ散會後ト云フコトニ決メテ御差支アリマスマイカ

○子爵立花種忠君 明日ハ請願第一分科會ガアリマスカラ、私ハ出席ガ出來マセヌ、左様御承知ヲ願ヒマス

○委員長(松室致君) 人數ガ多ウゴザイマスカラ誰モ差支ナイ日ト云フノハ……

○侯爵細川護立君 委員長ノ方デイツデモ宜イ日ヲ……

○磯部四郎君 明日大體ノ質問ヲ終ッテ、小委員ヲ御定メニナリマスレバ、運ビガ便利ダラウト思ヒマス

○委員長(松室致君) ソレデハ兎ニ角御差支ノアル方ハ仕方ガアリマセヌガ、明日午前十時、若シ本會議ガアレバ散會後ト斯ウ云フコトニ決メマス

午後零時五分散會

出席者左ノ如シ

委員長	松室	致君
副委員長	男爵坂本	俊篤君
委員	侯爵細川	護立君

政府委員

男爵小澤	武雄君
子爵樋口	誠康君
子爵立花	種忠君
大島	健一君
河村	讓三郎君
男爵宇佐川	一正君
男爵肝付	兼行君
男爵佐竹	義準君
磯部	四郎君
陸軍次官	山梨
理事	志水
海軍次官	井出
主理	内田
司法省刑事局長	豐島
	直通君
	半造君
	小一郎君
	謙治君
	重成君